

令和7年度 御幸が原小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

人権尊重の精神を基盤に、児童が多様な人々との「協働」を通して、自ら考え未来を創造し、たくましく生き抜く人間力の基礎を培う。

〈目指す児童像〉

「発見」：新しい知との出会いや初めての経験を通して、自分の可能性や仲間のよさを発見する児童

「挑戦」：明確な目標をもち、仲間と協力しながら困難な課題に取り組み、前向きに夢を追う児童

「創造」：日々の学びの中から、新しい自分や多様な価値観を生みだし、新しい時代を築く力をもった児童

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

・様々な社会変化に柔軟に対応し、新しい時代を生きる力を育成するため、児童自らが考え行動しながら自己表現できる機会の創生と、仲間との「協働」を通して豊かな人間性を育む教育活動を展開する。

・教職員がそれぞれの強みと熱意、英知を集結し、家庭・地域と連携しながら活気に満ちた教育環境を醸成する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 児童が個々の力を発揮するとともに、仲間と互いのよさを認め合いながら、新しいことに挑戦し伸びていく機会の創出に努める。

(2) 教職員は児童一人一人の良さを認め課題に寄り添いながら、褒めて励ます指導を通して児童との信頼関係の構築に努める。

○(3) 地域社会・保護者・地域学校園内小中学校と連携し、目標を共有しながら、地域教育資源の効果的な活用を図ることにより、「社会に開かれた教育課程」の具現化に努める。

(4) 「児童が課題意識をもって主体的に取り組む授業」を通して基礎学力の定着を図るとともに、対話型の課題解決学習を取り入れながら、知識を活用する力の育成に努める。

(5) 教職員が組織力を生かして課題に対峙することで、個々の資質向上及び組織力の向上に努めるとともに校務の改善や保護者ボランティアの効果的な活用を通して、教職員の勤務時間の適正化を図る。

【鬼怒地域学校園教育ビジョン】

自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成

4 教育課程編成の方針

・各教科の指導内容との関連性を重視し、学年行事・特活・総合的学習等の時期や内容を設定する。

・地域社会の教育資源を効果的に活用し、学習活動の場の広がりや習得の深まりを目指す。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

・教職員が学校課題を共有し、方向性を明確にして解決に向かう学校組織の機能向上。

○児童一人一人が自分の居場所をもち、仲間と認め合いながら、力を発揮できる場の創生。

・地域社会や保護者への積極的な情報発信による信頼関係の構築と地域教育力の効果的な活用。

・業務改善による児童と向き合う時間の創出。

(2) 学習指導

○自分自身の目標や協働して課題解決に取り組む活動を通じた、主体的に学びに向かう力の育成。

・習熟度別学習やICTの効果的な活用による学習内容の確実な定着と理解の深化の追求。

・特別支援教育の充実による特性に応じた力の獲得。

・校内サポート事業を活用し、一層の授業改善を目指すとともに今年度の課題研究の推進を図る。

(3) 児童生徒指導

○認め励ます指導を通じた自己肯定感の涵養と、目標をもち活動に主体的に取り組む態度の育成。

・規範意識の高揚と、多様性を理解し仲間と認め合いながら伸びていく集団の形成。

・SNS、通信型ゲームを起因とする問題行動の早期把握と指導体制の構築。

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

・児童が運動能力に関する自分の課題を知り、楽しみながら体力の向上を図る体育活動の充実。

○「健康・安全」「食」に関する課題の把握と、実践力を伴う生活改善の意識の育成。

・感染症拡大防止に関する正しい知識の理解と、生活習慣の確立。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所_に下線を付ける。

| 第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策 | 評価項目 | 主な具体的な取組 | 方向性 | 評価 | | | | | | | | | |
|-------------------------|--|---|-----|---|--|----|----|----|------|------|-----|------|------|
| 1-(1) 確かな学力を育む教育の推進 | <p>A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合80%以上</p> | <p>① 漢字の読み書きや計算力の定着を図るため, 指導を充実させる。 ・朝の学習の時間を活用した必要に応じた学習支援の充実(各学年に応じたドリルやプリントなど) ・A Iドリルの活用</p> <p>② 家庭学習習慣の確立のための工夫を図る。 ・「みはらっ子家庭学習の手引き」の活用 ・「家庭学習強化週間」を年2回実施する。 ・自主学習ノートの活用と啓発と保護者への協力依頼</p> <p>③ 学び合いや話し合い活動の場を効果的に取り入れる。 ・話し合いの意図的な設定と工夫 ・話し方・聞き方の決まりの活用</p> <p>④ 学習活動に必要なかつ効果的な場面でICT機器や図書を活用を図る。</p> <p>⑤ 漢字オリンピックテストの実施</p> <p>⑥「<u>振り返りの言葉</u>」のシートを活用し, <u>次時への学習につなげる。</u></p> | A | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 432 1517 533"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>90.1</td> <td>91.0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>92.9</td> <td>88.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>児童・教職員ともに, 数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き, 朝の学習等の時間を活用し, 基礎学習の定着を図る。 ・家庭学習強化週間を引き続き実施し, 家庭学習の習慣化を図る。 ・話し方・聞き方の決まりを指導し, 話し合いの基本的な学習態度の定着を図る。 ・単元を貫く課題や協働的な学びの場を設定して, 主体的に学習に取り組めるように工夫する。 ・児童同士の情報共有や認め合いの活動においてICT機器を効果的に活用する。 ・漢字オリンピックテストを年2回実施し, 主体的に復習に取り組ませていく。 ・「振り返りの言葉」のシートを各クラスで活用し, 自らの学びを振り返り, かつ次時への学習につなげる。 | | R6 | R7 | 児童 | 90.1 | 91.0 | 教職員 | 92.9 | 88.9 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | | | |
| 児童 | 90.1 | 91.0 | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 92.9 | 88.9 | | | | | | | | | | | |
| 1-(2) 豊かな心を育む教育の推進 | <p>A2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合80%以上</p> | <p>① どの子にも居心地のよい学級づくりを目指す。 ・Q-Uテストの実施, 事例研究会実施, 活用 ・授業や日常生活において, 望ましい言葉づかいや友達を敬称(～さん)で呼ぶ指導を更に定着させ, 自他を大切に思う心や態度を養っていく。</p> <p>② 道徳の授業を通して, 自他を大切に思う心や態度を養い, 日々の生活に生かす力を育成する。 ・学年内で道徳の授業の教材を共有し, 道徳の授業を充実させ, 授業後に学んだことをふり返ることができるようにする。 ・年間1回, 授業参観時に道徳の授業を実施する。</p> | B | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1422 1517 1523"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>90.1</td> <td>88.5</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>92.9</td> <td>85.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>児童・教職員ともに, 数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで以上に児童が相手の気持ちを考えて行動し, 時と場に応じた言葉遣いができるよう家庭と連携して指導していく。 | | R6 | R7 | 児童 | 90.1 | 88.5 | 教職員 | 92.9 | 85.2 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | | | |
| 児童 | 90.1 | 88.5 | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 92.9 | 85.2 | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--|--|--|----|----|----|------|------|-----|------|------|
| | <p>A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合 85%以上</p> | <p>① 各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業や強化期間中に、各学年の目標を児童に提示し、意欲的に取り組めるようにする。 ・「めざせ！スーパーみはらっ子」への取組に意欲的に取り組んだ児童へ賞状とメダルを贈呈し賞讃する。 <p>② 学級活動や道徳の授業をとおして目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動において学校行事に向けた目標を立てたり、道徳の授業において粘り強く取り組むことのよさを考えさせたりする。 ・学級活動や道徳の授業において、行事のふり返しを行い、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。 | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 174 1516 297"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>89.2</td> <td>87.3</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>89.3</td> <td>88.9</td> </tr> </table> <p>児童・教職員ともに、数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めざせスーパーみはらっ子」の取組を見直し、今の児童の実態に合った取組にしていくとともに、教職員でも共通理解を図り積極的に活用していく。 | | R6 | R7 | 児童 | 89.2 | 87.3 | 教職員 | 89.3 | 88.9 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | | |
| 児童 | 89.2 | 87.3 | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 89.3 | 88.9 | | | | | | | | | | |
| <p>1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p> | <p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合 80%以上</p> | <p>① 昨年度の生活についての実態調査等をもとに基本的な生活習慣について（特に睡眠時間・食生活）、家庭との連携を図り啓発や指導をする「ノースマホ・ノーゲームデーにおけるスマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言 ver. 2」を活用したルール作り…養護教諭との連携</p> <p>② 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常の生活指導を行う。</p> <p>③ 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。</p> <p>④ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 1193 1516 1317"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>92.6</td> <td>87.6</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>78.6</td> <td>88.9</td> </tr> </table> <p>児童・教職員ともに、数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校園で連携して歯みがきや朝ごはんのチェックを行う。 ・給食マナー週間や残食を減らすためのイベント等を継続して行う。 ・今後も交通安全教室、自転車安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。 | | R6 | R7 | 児童 | 92.6 | 87.6 | 教職員 | 78.6 | 88.9 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | | |
| 児童 | 92.6 | 87.6 | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 78.6 | 88.9 | | | | | | | | | | |

1-(4)
将来への希望と協働する力を育む教育の推進

A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。

【数値指標】

⇒児童・教職員の肯定的割合
児童85%以上
教職員90%以上

- ① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、協働的な活動を通して、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。
- ② 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。
- ③ キャリアパスポートを効果的に活用し、担任や保護者からコメントを記入し、児童にフィードバックすることで、自分の成長を振り返る場面を設ける。またマッチョマンカードもキャリアパスポートファイルに綴じることで自己肯定感を高められるようにしていく。

【達成状況】

| | R6 | R7 |
|-----|------|------|
| 児童 | 90.7 | 87.6 |
| 教職員 | 100 | 96.3 |

児童・教職員ともに、数値目標を上回った。

【次年度の方針】

- ・各項目の取組を継続して行う。
- ・各行事の振り返りや「スーパーみはらっ子」の取組を通して、担任が児童を認め励ます声掛けをすることで、児童が成長を実感したり、自分の良さに気付いたりできるようにする。

B

2-(1)
グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進

A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。

【数値指標】

⇒児童・教職員の肯定的割合
85%以上

- ① 外国語活動(英語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ② 日常的に英語のあいさつやゲームを取り入れたり、英語の絵本を図書室に置いたりして、英語に親しむ環境を整える。
- ③ 振り返りカードを各クラスで活用し、自らのコミュニケーションについての態度を振り返るようにする。評価にも生かす。

【達成状況】

| | R6 | R7 |
|-----|------|------|
| 児童 | 84.2 | 78.9 |
| 教職員 | 85.7 | 81.5 |

児童・教職員ともに、数値目標を下回った。

【次年度の方針】

- ・担任とALTが連携を図れるように打合せを十分に行ったり、教材研究を行ったりし、児童の主体的な活動を促されるように指導の充実を図る。
- ・英語によるコミュニケーション活動を取り入れた授業形態を工夫する。
- ・振り返りカードを各クラスで活用し、自らのコミュニケーションについての態度を振り返るようにする。評価にも生かす。
- ・児童が日常的に英語に親しむ環境を整備していく。

B

A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。

【数値指標】

⇒児童・教職員の肯定的割合
85%以上

- ① 生活科、道徳、社会科、総合的な学習の時間(宇都宮学)の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市や御幸ヶ原町の良さに気付く指導に努める。
- ② 教師自身が宇都宮市や御幸ヶ原町の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。
- ③ 宇都宮に関わる図書資料を図書室に置いたり、新聞記事やデジタル教科書を活用したりして、宇都宮に親しむ環境を整える。

【達成状況】

| | R6 | R7 |
|-----|------|------|
| 児童 | 84.8 | 82.3 |
| 教職員 | 78.6 | 81.5 |

児童・教職員ともに、数値目標を下回った。

【次年度の方針】

- ・「宇都宮学」の内容を全学年において指導できるように、引き続き各教科との連携について年間指導計画の整備をする。
- ・地域の行事等を活用しながら、児童が御幸ヶ原町や宇都宮の良さを身近に触れることができるように、より多くの活動を設定していく。

B

| | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|--|--|----|----|----|------|------|-----|------|------|
| <p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p> | <p>A8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合 85%以上</p> | <p>① 児童がコンピュータや情報通信 ネットワークなどの情報手段に親 しみ、適切に活用する能力を育成で きるよう、授業において積極的にI CT機器を活用する。 ② 各学年のその時期の授業内容と の関連に配慮した教育図書の活用 に努める。 ③ ICT機器の活用研修を計画的 に実施する。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 174 1513 275"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>88.5</td> <td>82.3</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>92.9</td> <td>92.6</td> </tr> </table> <p>教職員は数値指標を上回ったが、児童は 下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践研究の成果を生かし、学年の発達段階 を踏まえながら、学習活動及び学業指導 の中で、ICTや図書を有効に活用して 利用することの良さを児童が実感できる ようにする。 ・授業実践で得られた効果的な手法や学習 形態は、全体で共有できるように研修の テーマに掲げたり、短時間で学び合える 「ミニワークショップ」などを取り入れ たりする。 ・ICT機器との関わり方について、家庭に も啓蒙し、連携を図りながら活用できる ようにする。 | | R6 | R7 | 児童 | 88.5 | 82.3 | 教職員 | 92.9 | 92.6 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | | |
| 児童 | 88.5 | 82.3 | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 92.9 | 92.6 | | | | | | | | | | |
| <p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p> | <p>A9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合 85%以上</p> | <p>① 各教科や領域、児童会活動におけ る環境教育を通して、環境問題への 関心を高め、環境と調和しながら生 きる意識や態度を育成する。 ・生活科、理科、社会、道徳、家庭 科の学習との関連、5年総合的な 学習「SDGsについて学ぼう」 での探究学習を取り入れる。 ・年間指導計画を整備し、SDGsを 意識しながら指導する。 ・健康委員会の食育推進活動 ・環境委員会のSDGs推進活動 ② 人権教育年間指導計画に基づき、 全教育活動を通して人権教育を計 画的に実施する。 ③ 過去の災害の具体事例から学ぶ 教材を工夫し、防災教育を充実す る。 ④ SDGsに関する図書資料や掲 示物のコーナーを作り、児童の関心 を高める。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 913 1513 1014"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>89.5</td> <td>84.2</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>64.3</td> <td>77.8</td> </tr> </table> <p>児童・教職員ともに、数値目標を下回っ た。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科や領域における環境問題や防災に ついて、生活に結び付けた学習内容を取 り入れ、児童の実感を伴った学びを進め る。 ・「持続可能な社会」についての内容を全学 年において指導できるよう、年間指導計 画を整備する。 ・発達の段階に応じて「持続可能な社会」に ついて関心をもたせる。 | | R6 | R7 | 児童 | 89.5 | 84.2 | 教職員 | 64.3 | 77.8 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | | |
| 児童 | 89.5 | 84.2 | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 64.3 | 77.8 | | | | | | | | | | |
| <p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p> | <p>A10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合90% 以上</p> | <p>① 特別支援教育コーディネーターや児 童指導主任を中心に、全校で特別な支援 が必要な児童に関する共通理解を図り、 一人一人のニーズを踏まえた支援 を組織的に行う。 ・定期的にケース会議や校内支援 委員会を開催する。 ・「チームみはらの特別支援教育」 の推進 ② 特別支援学級の児童はもとより、 通常学級においても、必要に応じて 個別の教育支援計画を作成し、それに基づ いて合理的な配慮を行う。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 1619 1513 1720"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> <td>96.3</td> </tr> </table> <p>教職員において、数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに個別のケース会議を丁寧に行 うことで、関係職員同士での共通理解を より図ることができた。次年度も同様に、 組織的に丁寧な支援を引き続き行ってい きたい。 ・引き続き一人一人のニーズに合った支援 をする。 | | R6 | R7 | 児童 | | | 教職員 | 100 | 96.3 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | | |
| 児童 | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 100 | 96.3 | | | | | | | | | | |

3-(2)
いじめ・不登校対策の充実

A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。
【数値指標】
⇒児童・保護者の肯定的割合 児童 85%以上
保護者 80%以上

- ① いじめの早期発見・早期対応のためのアンケートを実施し(年4回)、気になる児童への事後指導を行う。
- ② いじめゼロ強調月間(5月・9月)の取組を実施し、いじめは決して許されないことを理解させる。
・いじめゼロ標語を作成・掲示し、いじめゼロに対する意識の涵養を図る。
・計画委員会の活動により、いじめ撲滅に対する児童の意識を高める。
- ③ いじめ対策における学校での取組を、学校だよりやさくら連絡網などに掲載し、保護者に伝え、連携を図る。
- ④ 人権週間に全校児童で人権標語を作成・掲示し、児童の人権感覚と意識の涵養を図る。

【達成状況】

| | | |
|-----|------|------|
| | R6 | R7 |
| 児童 | 96.6 | 96.3 |
| 保護者 | 78.0 | 82.6 |

児童・教職員ともに、数値目標を上回った。

【次年度の方針】

- ・アンケートを基にした教育相談を丁寧に行うとともに、相手の気持ちを考えて行動できるような指導に努める。

B

A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。
【数値指標】
⇒児童の肯定的割合 85%以上

- ① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。
・「めざせ！スーパーみはらっ子」カードの活用
・当番活動や係活動など、児童が活躍する場を多く設定する。
・学校行事や学級活動等で児童が互いに認め合う場を多く設定する。
- ② 教育相談、アンケート、Q U調査等の結果を活用し不適應傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図る。
- ③ いじめアンケートを活用し、学校生活への不安をかかえている児童の早期発見・早期対応に努める。
- ④ 児童の状況を把握し、登校につなげられそうな場合には、ライジングルーム等の校内資源を活用し、学校での児童の学びを支援する。

【達成状況】

| | | |
|-----|------|------|
| | R6 | R7 |
| 児童 | 95.4 | 92.5 |
| 教職員 | 100 | 92.6 |

児童・教職員ともに、数値目標を上回った。

【次年度の方針】

- ・学級内で児童同士が認め励まし合う機会を設定するとともに、「めざせ！スーパーみはらっ子」カードを活用するなど、担任も認め励ます指導に努め、児童一人一人の自己肯定感を高める学級経営を行う。
- ・職員会議後の児童の情報交換会を生かし、学校全体で組織的に取り組む。
- ・教育相談、アンケート、Q U調査等を行い、配慮が必要な児童を早期に発見し、全教職員で情報を共有し対策に当たる。

B

3-(3)
外国人児童生徒等への適応支援の充実

A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。
【数値指標】
⇒児童・保護者の肯定的割合 80%以上

- ① 児童が意欲的に活動できる学校行事の計画・実施に努めるとともに、児童会・委員会活動など児童の主体的活動を積極的に展開する。
・代表委員会を中心とした委員会活動の活性化
・学級での活動の充実
・ふれあい班活動の充実
- ② 異学年・幼児・高齢者・地域・学校支援ボランティアなどとのふれあいの機会や交流活動の充実を図る。
- ③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。
・「めざせ！スーパーみはらっ子」カードの活用
- ④ 縦割り班清掃については、新システムになったので、適宜教職員で振り返り、より良い活動ができるように改善していく。

【達成状況】

| | | |
|-----|------|------|
| | R6 | R7 |
| 児童 | 96.6 | 92.8 |
| 保護者 | 86.1 | 90.8 |

児童・教職員ともに、数値目標を大幅に上回った。

【次年度の方針】

- ・各項目に挙げる具体的な取組による成果が表れているため、継続して実施する。
- ・今後も、縦割り班での清掃を継続し、異学年間の交流を深める手立てとして活用していく。

B

3-(4)
多様な教育的ニーズへの対応の強化

| | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|--|--|----|----|----|------|------|-----|------|------|
| <p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p> | <p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合80%以上</p> | <p>① 学校課題に沿って指導目標を明確にし、分かる授業を目指して指導法の工夫や教材教具の工夫に努める。 ・学習課題、「めあて」の明確化 ・学習の成果を実感でき、次の学習に活かす振り返り活動の工夫 ・分かりやすい板書の工夫 ・話し合い活動の充実 ・個に合わせたICT機器及び図書を活用</p> <p>② TTや少人数・習熟度別による指導を充実させ、成就感を味わわせるとともに補充のための学習を充実させる。(3学年～)</p> <p>③ かがやきルームでの個に応じたきめ細やかな指導により、安心して学習に取り組めるよう支援する。</p> <p>④ <u>語彙を増やす取り組みに努める。</u> ・朝の読書の時間の確保 ・家庭学習での音読の奨励 ・辞書の活用</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 174 1513 277"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>96.9</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>児童・教職員ともに、数値指標を大幅に上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 分かる授業を目指して指導法の工夫や教材教具の工夫に努めるとともに、TTや少人数・習熟度別による指導を充実させる。 引き続き、担任とかがやきルーム担当の連携を図り、チームで支援する。 朝の学習を有効に活用し、基礎学力の定着を図る。 「振り返りの言葉」のシートを各クラスで活用し、自らの学びを振り返り、かつ次時への学習につなげていくようにする。 | | R6 | R7 | 児童 | 96.9 | 95.0 | 教職員 | 100 | 100 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | | |
| 児童 | 96.9 | 95.0 | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 100 | 100 | | | | | | | | | | |
| <p>4- (2) チーム力の 向上</p> | <p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合85%以上</p> | <p>① 「チームみはら」の合言葉のもと、学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら一丸となって取り組むよう努める。</p> <p>② 教職員の協働性を高めることに視点を置き、教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について助け合える雰囲気大切に、気軽に相談し合う。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 817 1513 920"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> <td>96.3</td> </tr> </table> <p>教職員において数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童指導における課題は、早期発見、早期解決となるように組織的対応を心掛け、場合によっては「ケース会議」を適切に位置付けて対応する。 職員会議や学年会で話題として挙げ、児童の実態について共通理解を図り、学校全体で課題解決に当たる。 | | R6 | R7 | 児童 | | | 教職員 | 100 | 96.3 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | | |
| 児童 | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 100 | 96.3 | | | | | | | | | | |
| <p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p> | <p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合80%以上</p> | <p>① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。</p> <p>② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。職員室にアラームを置き、日直の負担軽減に努める。また、保護者や地域の方の理解を得て公務軽減に協力してもらえるように努める。</p> <p>③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。</p> <p>④ 教務主任を中心に業務改革プロジェクトを組織し、年度途中であっても教育課程や校務分掌を見直し、勤務時間内の児童や授業にかかる時間等の充実を図る。</p> <p>⑤ 業務改善に当たっては、先行実践事例等を実情に応じて積極的取り入れ、学年主任会や学年会から、改善に向けた職員の考えを吸い上げ、共有し試行する。</p> <p>⑥ リフレッシュデーを積極的に運用するために、月に2回程度、任意にリフレッシュデーを設定できるような表を活用する。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1299 1513 1402"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>75.0</td> <td>85.2</td> </tr> </table> <p>教職員において、前年度に比べて大幅に向上し、数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の抱えている課題意識を共有し、各種教育活動の精選を焦点化して行う。 ⑤、⑥の取組をさらに推進し、必要に応じて内容の縮小、削減に取り組む。 各種会議等を実施する際は、児童の下校完了時刻を共通理解し開始時刻を守るようにするとともに、できるだけ内容の事前把握に努め、終了時刻を設定することで効率的な時間活用に努める。 | | R6 | R7 | 児童 | | | 教職員 | 75.0 | 85.2 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | | |
| 児童 | | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 75.0 | 85.2 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|--|--|----|----|-----|------|------|------|------|------|
| <p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p> | <p>○A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員・保護者の肯定的割合80%以上</p> | <p>① 地域学校園各部会・分科会毎に今年度の基本方針を受けた取組の充実を図る。 ・各部会、分科会の進捗状況について情報共有する。</p> <p>② 乗入れ授業や引継ぎの充実を図り、中1ギャップの緩和を図る。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 174 1513 277"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>96.4</td> <td>88.9</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>82.6</td> <td>80.9</td> </tr> </table> <p>教職員・保護者ともに、数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・各部会、分科会ごとに可能な小中一貫の取組を進めていく。 ・乗入れ授業・あいさつ運動等を計画的に実施し、児童の中学校進学への安心材料とする。</p> | | R6 | R7 | 教職員 | 96.4 | 88.9 | 保護者 | 82.6 | 80.9 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 96.4 | 88.9 | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 82.6 | 80.9 | | | | | | | | | | |
| <p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p> | <p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒保護者・地域住民の肯定的割合85%以上</p> | <p>① 御幸が原小学校地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行う。</p> <p>② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用する。</p> <p>③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。</p> <p>④ 家庭学習強調週間を設け、学力向上のために家庭と連携を図る。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 622 1513 725"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>94.9</td> <td>95.8</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100</td> <td>95.8</td> </tr> </table> <p>保護者・地域住民ともに、数値指標を大幅に上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・地域協議会を開催し、学校と地域の関係性を保ちつつ、関連のある行事において協力し合う。 ・学年間、分掌間で伝達・引継ぎを十分に行い、地域人材と学習活動を有効に関連させる。</p> | | R6 | R7 | 保護者 | 94.9 | 95.8 | 地域住民 | 100 | 95.8 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 94.9 | 95.8 | | | | | | | | | | |
| 地域住民 | 100 | 95.8 | | | | | | | | | | |
| <p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p> | <p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員・保護者の肯定的割合 教職員90%以上 保護者85%以上</p> | <p>① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。</p> <p>② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。</p> <p>③ 感染症（新型コロナウイルス・インフルエンザ）対策、熱中症予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1108 1513 1211"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> <td>96.3</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>91.7</td> <td>89.2</td> </tr> </table> <p>教職員・保護者ともに、数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・各項目に挙げる具体的な取組を継続する。 ・ICTを活用し、避難訓練の振り返りを蓄積していくことで、児童が自分の行動を振り返り、児童一人一人の安全に対する意識を高められるようにしていく。 ・ハンカチマッチョマンや健康に関するクイズラリーなどを引き続き活用し、児童の健康への意識を高める。</p> | | R6 | R7 | 教職員 | 100 | 96.3 | 保護者 | 91.7 | 89.2 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 100 | 96.3 | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 91.7 | 89.2 | | | | | | | | | | |
| <p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p> | <p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合85%以上</p> | <p>① 学習に必要なICT機器を整え児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用する能力を育成できるよう、授業において週2回以上の活用を目指し、ICT機器の活用法を発展させる。また、低学年のICT活用に関して、支援員さんからアドバイスをもらえるようにしていく。</p> <p>② 学習に必要な図書等を整え、学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、教育課程に沿った学校図書館の環境整備に努める。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1653 1513 1756"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>92.9</td> <td>96.3</td> </tr> </table> <p>教職員において、数値指標を大幅に上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・学級や学年間でICT機器の活用事例の情報交換を行い、教職員の経験値の向上に努める。 ・情報主任を中心に職員のニーズに合わせた校内研修を実施し、授業での有効利用を促進する。</p> | | R6 | R7 | 児童 | / | | 教職員 | 92.9 | 96.3 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | | |
| 児童 | / | | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 92.9 | 96.3 | | | | | | | | | | |

B 1 児童生徒は、時と場に
応じたあいさつをしてい
る。
【数値指標】
⇒児童・教職員・地域の肯定
的割合 80%以上

- ① 児童会（計画委員会）が中心とす
る全校児童が参加できるあいさつ
運動を実施する。
・学級活動や道徳の授業を通して、
あいさつすることの意義につ
いて考えさせる機会をもつ。
・「めざせ！スーパーみはらっ子」
カードの活用
・学校だより・学級懇談会であいさ
つ励行を保護者に伝える。
・校内で「あいさつ団」を募集し、
自主的にあいさつができる児童
を育てていく。
- ② 地域連携及び地域学校園で共通
課題として、あいさつ運動を展開す
る。

【達成状況】

| | R6 | R7 |
|-----|------|------|
| 児童 | 92.9 | 89.8 |
| 教職員 | 85.7 | 100 |
| 地域 | 86.7 | 87.5 |

児童・教職員・地域住民において、数値指
標を上回った。

【次年度の方針】

- ・あいさつは本校児童の「よさ」の一つであ
り、今後も学校内だけでなく、地域でも時
と場にに応じたあいさつを進んでしてい
こうとする意識をより高めていけるような
指導を継続して行う。
- ・教師による称賛や「めざせ！スーパーみは
らっ子」カードの活用などを通して、児
童のあいさつへの意欲を高める。

B

B 2 児童は、きまりやマナ
ーを守って、生活をして
いる。
【数値指標】
⇒児童・教職員の肯定的割合
80%以上

- ① 「みはらのきまり」をもとに全職
員が同じ姿勢で指導や支援にあた
る。
・「みはらのきまり」や「めざせ！
スーパーみはらっ子」との関連を
させ、月の生活と健康目標を行動
目標として設定し、校内放送を活
用しながら、周知と振り返りの徹
底を図る。
・重点指導内容を適宜取り入れ、強
調週間として全校体制で指導に
当たれるようにする。
・全児童がきまりやマナーを守っ
て生活できるよう、委員会の活動
をより充実させる。
・公共の場でもマナーやきまりを
守ることができるように、日常の
指導と合わせて、長期休み前の集
会や交通安全教室等を活用し、全
校児童への指導を徹底する。
- ② 全職員の共通理解の下、全校体制
で組織的に支援に当てるよう、報告
及び情報交換を確実に行っていく。
・児童の情報交換会や児童指導（毎
月）の実施。

【達成状況】

| | R6 | R7 |
|-----|------|------|
| 児童 | 92.0 | 87.3 |
| 教職員 | 67.9 | 77.8 |

児童は数値指標を上回ったが、教職員は
下回った。

【次年度の方針】

- ・児童の実態に合わせて改善を図りながら、
各項目に挙げる具体的な取組を引き続き実
施する。
- ・各クラスでメッセージを書いた丸シール
を廊下に貼る取組によって、児童が廊下
を歩いて移動する姿が見られるようにな
ったため、次年度もこの活動を継続して
いく。

A

| | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|----|----|-----|------|------|------|------|------|
| <p>B3 学校は図書室を中心に児童に、本の楽しさを味わわせる活動に取り組んでいる</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的割合80%以上</p> | <p>① 読書意欲の向上のための環境整備・指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの充実 ・朝の読書タイム ・読書月間の実施（委員会） ・お話し会 ・家読のすすめ【親子読書等】 ・読書記録の活用 ・必読図書の充実 ・読書マッチョマンカードなどの多読賞 ・新刊本、お薦め本の紹介 ・本の予約やリクエストカードの活用 ・市立図書館の活用 ・図書館だよりの発行 ・地域学校園との連携した取組（「鬼怒の本棚」の発行、共通のマナーやお話給食など） <p>② 各種お便りを通じて、読書に親しむ児童の様子を発信することで、校内での読書活動への取組を児童・保護者に意識化させると同時に、より本に親しもうとする雰囲気醸成する。</p> <p>③ 児童の読書意欲を喚起するために、図書室内外の展示コーナーを工夫する。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 174 1513 277"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>87.3</td> <td>71.3</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>85.8</td> <td>60.5</td> </tr> </table> <p>児童・保護者ともに、数値指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、読書環境の整備に努める。 ・図書室を中心として読書に親しむための企画を継続し、児童が本に親しむ場を設定する。 ・学校栄養士等と連携して「お話給食」を実施し、本の楽しさを味わう機会とする。 ・朝の活動において定期的に本を読む活動を行う。 | | R6 | R7 | 児童 | 87.3 | 71.3 | 保護者 | 85.8 | 60.5 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | |
| 児童 | 87.3 | 71.3 | | | | | | | | | |
| 保護者 | 85.8 | 60.5 | | | | | | | | | |
| <p>B4 学校は、人権尊重及び自他の生命や存在を大切にしている児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的割合児童90%以上 保護者85%以上</p> | <p>① どの子にも居心地のよい学級づくりを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間1回、授業参観時に道徳の授業を実施 ・年間35時間、道徳の授業の実施 ・Q-Uテストの実施、事例研究会実施、活用 ・教育相談週間の実施 <p>② 人権教育を全校体制で推進し、自他を大切に思う心や態度・実践力の育成に努めるとともに、教職員対象の人権教育ワークショップを行い、教職員の人権意識も高めていく。</p> <p>③ 児童の困り感や保護者からの相談に対して、きめ細やかな対応を行っていく。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 1099 1513 1202"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>95.0</td> <td>91.3</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>85.8</td> <td>86.2</td> </tr> </table> <p>児童・保護者ともに、数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各項に挙げる具体的な取組を継続して実施する。 ・お互いの良さを認め合う場面の設定や見つけた良さを可視化する掲示物の作成など、児童が自他の良さに気づく機会や環境づくりに努める。 | | R6 | R7 | 児童 | 95.0 | 91.3 | 保護者 | 85.8 | 86.2 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | |
| 児童 | 95.0 | 91.3 | | | | | | | | | |
| 保護者 | 85.8 | 86.2 | | | | | | | | | |
| <p>OB5 学校は、「自分を伸ばし、仲間と伸びる児童」を育てる教育活動を工夫している。</p> <p>【数値指標】 ⇒保護者・地域住民の肯定的割合80%以上</p> | <p>① 児童の発想を生かした児童会活動や、仲間と力を合わせて取り組む学校行事や学年・学級行事の内容充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動、クラブ活動、縦割り班活動 ・ドッジボール大会、長縄大会の実施 ・児童によるスローガン募集と運動会運営 ・児童集会の内容充実 ・チャレンジギネス等の活動 <p>② 授業の中に「学び合い」の場面を設定し、仲間と共に成長する姿勢を育てる。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 1646 1513 1749"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90.0</td> <td>87.1</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100</td> <td>95.7</td> </tr> </table> <p>保護者・地域住民ともに、指標数値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発想を生かした児童会活動や、学校行事、学年行事を充実させていく。 ・スーパーみはらっ子や漢字オリンピックなどの取組を引き続き行う。 | | R6 | R7 | 保護者 | 90.0 | 87.1 | 地域住民 | 100 | 95.7 |
| | R6 | R7 | | | | | | | | | |
| 保護者 | 90.0 | 87.1 | | | | | | | | | |
| 地域住民 | 100 | 95.7 | | | | | | | | | |

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校目標の達成に向けて、各項目に挙げた取組を着実に実施することができた。学校マネジメント全体アンケートの結果は、25ある評価項目のうち19項目が数値目標を達成した。

特に、A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」は、回答した全ての対象において肯定的回答が90%以上という高い評価を得ることができた。これは、全教職員が一丸となって「スーパーみはらっ子」の取組を通して、自己肯定感の涵養、規範意識の高揚、主体的に学びに向かう力の育成に努めてきた成果であると考えられる。また、教職員一人一人が、分かる授業を目指して教材研究に努めていることから、A14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」においては、児童・教職員の肯定的回答が数値指標を15ポイント以上上回った。

また、地域協議会の一部である学校支援ボランティアを始めとする様々な方々との連携協力により、実り多い豊かな教育活動を行うことができたため、A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」においても高い評価を得ることができた。

昨年度課題となった「きまりやマナーを守って生活している」については、教職員の肯定的回答が数値指標に達しなかったものの、改善傾向にあるため、引き続き、児童と「みはらのきまり」を確認しながら徹底を図る。

数値指標を達成することができなかった「英語を使ったコミュニケーション」や「宇都宮のよさを知っていること」「持続可能な社会への関心」については、改善が図られるよう、より一層工夫し、意識して指導していく必要がある。

7 学校関係者評価

- ・ 児童が本に親しむ環境をこれからも工夫し、読書の楽しさを味わわせ、読む力はもちろんのこと書く力も身に付けてほしい。
- ・ 不登校の原因は、学校だけでなく家庭など様々なことが考えられるため、対策は容易ではない。
- ・ 「きまりやマナーを守っている」の肯定的回答の割合は、市の平均を下回るが、昨年度に比べて向上しているので、引き続き指導に力を入れてほしい。
- ・ あいさつがきちんとできる児童が多くなってきた。また、高齢者と交流する活動では、進んで手伝おうとする児童の姿も見られ、思いやりの心も育っている。
- ・ 保護者や地域の方々の学習支援ボランティアに対する意識が高く、様々な教育活動においてたくさんの方々に協力していただいている。いろいろな方の支えで子供たちが育てられていると感じている。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 「めざせ！スーパーみはらっ子」の取り組みを軸として、様々な場面で機会を捉え、認め励ます指導を行ってきたため、児童の自己肯定感を高め、目標に向かって主体的に取り組もうとする児童の姿が多く見られるようになった。そのことが功を奏し、学校全体に活気が生まれ、明るくいいきとした雰囲気につながったと考えられる。
- ・ 学習指導においては、教職員自らが指導力の向上に努め、「一人一人を生かし、自己肯定感を高める指導の工夫」を研究主題として校内研究に取り組んできた。次年度も引き続き、児童にとって「分かる、できる、楽しい」授業を目指して、学習形態や指導法を工夫する。また、1人1台端末や図書資料の効果的な活用にも努めていく。
- 児童生徒指導においては、児童の規範意識をより一層高められるよう、全教職員が「みはらのきまり」を基に共通理解を図りながら、同一歩調で指導に当たる。
- ・ 不登校対策については、全ての児童が安心して登校できるようになることを目指し、それぞれの児童が抱える多様な課題に対応できるよう、別室登校支援教室「みはらライジングルーム」をはじめとして、体制や方法を工夫しながら、家庭や関係機関と連携して改善に努める。
- ・ 長寿会をはじめとする地域諸団体等との連携や学習支援ボランティアの方々の協力により、充実した教育活動を行うことができた。また、児童がたくさんの方々と触れ合うことを通して、多様な考え方や自分のよさに気付き、自他の大切さを認識することができた。今後も、学校と地域のつながりを大切にしながら、特色ある教育活動を展開していく。
- ・ 保護者や地域社会への情報発信を積極的に行い、学校と家庭や地域が一体となって児童の育成に努める。